

平成14年10月8日

川崎市長
阿部孝夫様

川崎市事業評価検討委員会
会長 黒川和美

平成14年度再評価実施事業の審議結果について

平成14年8月8日、貴職から「国土交通省所管公共事業の再評価実施要領」に基づき依頼のありました国庫補助事業に係わる再評価実施事業に対する対応方針案について、2回にわたり委員会を開催し審議した結果を次のとおり報告いたします。

- 1 委員会は、まず貴市関係局から、別紙の平成14年度再評価実施事業（国庫補助事業）の3事業について、市の対応方針案等の説明を受け不明な点などについて質すとともに慎重に審議した。
- 2 この結果、事業をめぐる状況等を総合的に勘案し「継続」とする市の対応方針案は妥当と判断した。
- 3 なお、上記の判断に係わらず、今後事業を継続するうえで、次の点に配慮すべきであると考えてるので付言する。

1 連続立体交差事業 京浜急行大師線

- ・踏切除却によるボトルネックの解消などの事業目的だけでなく、将来のまちづくりに大きな意味をもつことから、京浜臨海部の再編など幅広い観点から評価すべき重要な事業であると考えます。
- ・本事業に関連する事業の将来計画に未確定なところがある中で、いまできることをできるだけ効果的に実施し、市全域の将来のまちづくりに備えることはもとより、当該地域の周辺まちづくり計画と連動した効率的な整備の工夫が必要である。
- ・こうした中で、今後も長期化が予想される事業なので、いつまでに何ができるかを明確にしていくことが重要である。

2 一般国道409号道路改良（二子工区）

- ・整備効果の視点としては、道路全体のネットワークから見た路線としての効果を総合的な観点から考えることが必要であり、このままでは更に長期化することから、早期に整備効果を発現するための取組みが必要である。
- ・道路の幅員構成については、交通の円滑化だけでなく、地域住民の意見や利便性ととも緑化など環境に十分配慮した整備を行う必要がある。

3 川崎港廃棄物処理事業廃棄物埋立護岸

- ・埋立後の土地利用を含め、港湾地域全体で親水性の高い環境に配慮した安全・安心で快適な市民に親しまれる港湾機能を有する地域形成が望まれる。
- ・事業は、計画通り順調に進捗しているが、より事業効果を上げるには、全体の処分量を減らすことが必要であり、特に建設発生土などは、ストックヤードを別に作るなどして運搬及び利用方法を含めた効率的な運営システムの検討が課題である。